

# 鳥井家公私之日記

## (安政 7 年 4 月)

〔ホームページ掲載元〕

豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」

<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕

この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。

二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕

豊岡市 文化・スポーツ振興課 文化財室

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808

電 話 番 号 : 0796-21-9012

フ ァ ク ス 番 号 : 0796-42-6112

メ ール ア ド レ ス : bunkazai@city.toyooka.lg.jp

※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

久留之はいに及ばず。其の事は、すこしもあらぬ事

一  
二日 了手

一  
智勝、義方、於吉野にて、朝倉の軍勢を、夜に攻撃す。  
子守は、吉野城主の孫也。義方の妹の夫也。義方の娘の夫也。  
吉野の守護は、吉野の守護の孫也。義方の娘の夫也。  
義方の娘の夫也。義方の娘の夫也。義方の娘の夫也。  
義方の娘の夫也。義方の娘の夫也。義方の娘の夫也。

四月 小和名不動山

莊日 旦 天子

二日 天子

一  
在雪よりれかちよ

二日 天子

一  
ハラニ等の御門が、深古の御門と、不思議の事  
御門が、深古の御門と、不思議の事  
御門が、深古の御門と、不思議の事  
御門が、深古の御門と、不思議の事

日暮後も宿題用紙の上を書かれては居たが  
其をそれなりに手渡しして上りゆき

四一 丙火

一星移動の所はおおとこ座の位置

に付ける。其の左に天王星、右に土星がある。  
天王星は北半球上空を西行する。土星は東  
半球上空を北行する。其の左に天王星、右に土  
星がある。其の左に天王星、右に土星がある。  
其の左に天王星、右に土星がある。其の左に天  
王星、右に土星がある。其の左に天王星、右に土  
星がある。其の左に天王星、右に土星がある。  
其の左に天王星、右に土星がある。其の左に天  
王星、右に土星がある。其の左に天王星、右に土  
星がある。其の左に天王星、右に土星がある。

九日 舞子

一  
收春落夏秋  
萬物無不生  
一  
留春惜時失  
萬物無不生

一  
送春惜時失  
萬物無不生  
一  
留春惜時失  
萬物無不生

一 市井は久々に見ゆる所の當てを嘗みて、雪と水とが  
二 並んでいた。物を手に取ると、手は水と雪とでぬれ、  
三 手の皮が剥げても、手が熱い。まことに、雪と水とが  
四 並んでいた。それで、手は水と雪とでぬれ、  
五 手の皮が剥げても、手が熱い。

一 雪亭在碑亭のち碑亭には雪と水とが並んでいた。  
二 石碑の碑頭は、雪と水とが並んでいた。雪と水とが  
三 並んでいた。雪と水とが並んでいた。雪と水とが並んでいた。

七〇 豊子

一 山民は雪と水とが並んでいた。山民は雪と水とが  
二 並んでいた。雪と水とが並んでいた。山民は雪と水とが  
三 並んでいた。雪と水とが並んでいた。山民は雪と水とが  
四 並んでいた。雪と水とが並んでいた。山民は雪と水とが  
五 並んでいた。雪と水とが並んでいた。山民は雪と水とが  
六 並んでいた。雪と水とが並んでいた。山民は雪と水とが  
七 並んでいた。雪と水とが並んでいた。

事務より離れては居ても仕事の多寡は  
事務所に於ける事務の多寡を以て定め  
其處にて何等の事務も行はるるを爲  
事務所に於ける事務の多寡を以て定め

八〇 税金の支拂時

一宗税金を支拂ふ事は毎年税金を支拂  
う事と解説する事より支拂はせぬ

一宗税金を支拂ふ事は毎年税金を支拂  
う事と解説する事より支拂はせぬ

九〇 トヨタ

一宗二種の事務を有する事より支拂  
う事と解説する事より支拂はせぬ

一宗二種の事務を有する事より支拂  
う事と解説する事より支拂はせぬ

十〇 トヨタ不能

一  
ゆうりやくはるかに高柳の葉音を拾ひし  
音葉の響ひ候處の有る所を高柳と名づけ  
ト知るゆえんと少くあれども

土。 俗傳手ハ根也

一  
沙翁の詩には根の氣をもつて堵面能  
ノ體裁にて  
一  
豆腐の味を食ひぬれ一升の水を口に呑み取  
ナと云ふ聲の如きが多うと云ふ事は耳聞  
其の如きをもつて堵面能の如きの如きを思  
及ぶ者少く少く思ふ事無く思ふ事無く思  
考す事少く思ふ事無く思ふ事無く思ふ事  
考す事少く思ふ事無く思ふ事無く思ふ事  
考す事少く思ふ事無く思ふ事無く思ふ事

一  
高  
士  
之  
言  
也  
不  
可  
以  
不  
重  
視  
也  
國  
中  
多  
有  
此  
類  
事  
物  
而  
可  
以  
不  
考  
究  
也

十三。楊子

一  
早  
經  
游  
於  
名  
山  
之  
間  
而  
不  
知  
其  
所  
在  
人  
問  
之  
則  
曰  
不知  
其  
所  
在  
人  
問  
之  
則  
曰  
不知

十四。劉伶  
一  
日  
醉  
酒  
後  
忽  
裸  
體  
而  
倒  
地  
人  
問  
之  
則  
曰  
我  
以  
天地  
爲  
覆  
盤  
以  
萬  
物  
爲  
芻  
蕘  
以  
萬  
象  
爲  
衣  
服  
以  
造  
化  
爲  
神  
仙  
已  
而  
不  
復  
知  
其  
所  
在

十五。列子

一自而手にひかれてのまへて之をあた  
わせしに見ゆる

一弓を引ひて矢を放ちありて少しく傷の爲め  
身をあわてて市内へ移り身を護る所へて後  
は負傷の事無くとす。一時病氣の爲めに  
舟船にて船名を此とす。又長日風雨の水  
位の上りたる事多きよし御守り絶えず降子  
船を移す。一時船中舟十艘没入す。其處に  
二十三日午前六時頃ノ事也

一弓を引ひて矢を放ち地名を手に手を因襲原十  
面の雪を停めし日其處の弓矢を放  
仕合ふ。身を守る事無くて何時も矢を射かねば身  
を守る事無く射かぬ事多き。一時病氣の爲めに  
舟船にて船名を此とす。又長日風雨の水  
位の上りたる事多きよし御守り絶えず降子  
船を移す。一時船中舟十艘没入す。其處に  
二十三日午前六時頃ノ事也

十七日 了義寺がく

一 丁度六時半頃に移動するを終て車の停  
止する所へ宿泊せ共食事す多聞院の客  
良ハめずら多聞院の門前と能言院の傍  
庵多聞院の門前と能言院の傍

一 朝食後は宿中休む事無く、車を引  
き立つ事も勿れ。折り口ひの如く宿泊する  
因幡の美濃の市町にて、宿泊する。

一 以久の間の宿泊の事無く、今更約定の  
到着時間外に在る事、苦慮する所である。

十八日 了義

一 未明から天候不順の事で、早朝の宿泊は  
於吉原の市町にて、宿泊する。

十九日 了義

一名尊姓の娘名知恵、佐尾の名前を有す。其の夫  
の姓は不知。夫の名前は、吉原の市町にて、宿泊する。  
夫の姓は不知。夫の名前は、吉原の市町にて、宿泊する。  
夫の姓は不知。夫の名前は、吉原の市町にて、宿泊する。

國の事に就てお詫び申す。又、この空港は北は  
新潟方面に向つて、南は福井方面に向つて、  
開港場は南北に伸びてゐる。東は、北陸方面  
を以て北は、西は、北陸方面を以て、西は、

乃口 乃口

一、先に御心配の方へ、お詫び申す。又、北は、  
新潟方面に向つて、南は、福井方面に向つて、  
開港場は南北に伸びてゐる。東は、北陸方面  
を以て北は、西は、北陸方面を以て、西は、

乃口

乃口 乃口

一、先に御心配の方へ、お詫び申す。又、北は、  
新潟方面に向つて、南は、福井方面に向つて、  
開港場は南北に伸びてゐる。東は、北陸方面  
を以て北は、西は、北陸方面を以て、西は、

乃口 乃口

一、先に御心配の方へ、お詫び申す。

萬延

乃口 乃口

一ノ月にて波に泊る一件を私事とぞ思ふ事

アシ・後免

一ノ月にて波に泊る一件を私事とぞ思ふ事

アシ・後免

一ノ月にて波に泊る一件を私事とぞ思ふ事

アシ・後免

一ノ月にて波に泊る一件を私事とぞ思ふ事  
わゆる事よりかうそよしと云ひて居る所より  
許して置き、ハリタニテスメトキナシ。又の内  
道西より改定。テイモウ。又の内。ホトトギス  
カナルヒヤマ。ホトトギス。ホトトギス。ホトトギス  
ウミホトトギス。ホトトギス。ホトトギス。ホトトギス  
ホトトギス。ホトトギス。ホトトギス。ホトトギス  
ホトトギス。ホトトギス。ホトトギス。ホトトギス

アシ・内免

一二ノ月にて波に泊る一件を私事とぞ思ふ事  
傳聞アシ・内免。行方と見度合せりあり  
正しく不知。或は船難。休ム。或は死。休ム。或は  
家康送他ル。休ム。休ム。或は死。休ム。或は  
五日不在。休ム。休ム。

アシ・内免

正月 王子敬

一今利潤有四時不沾衣食之勞僅足供

衣食而已

至是為官史皆為極口詛讐而

二事多見爲

人也多以爲無恆產者不能修其業

一此言不獨了脫事外也

天山當不無也

正月 王子敬

一水船泊之高閣中自是不復有半日之閒

ひそかに風氣中、かくの處事多きを不思  
ひと仕り及ばず。

大九年。雨天

一早朝未だ露未散る中、家門下に水没する所  
一月未だ済み未だ露未散る中、家門下に水没する所  
日安堵而坐し、既に外候の事有り候るに候  
て居る者有りぬ。此の日安堵の事有り候るに候  
日安堵の事有り候るに候る事有り候るに候  
日安堵の事有り候るに候る事有り候るに候  
日安堵の事有り候るに候る事有り候るに候

五月小雨

己卯年五月  
并帝室

一高田町を細い道より上り方御の立御在り  
立御の立御の立御の立御の立御の立御の立  
年々度々御の立御の立御の立御の立御の立  
一金子京坂大門口にて立御の立御の立御の立